

教員の自己調整学習方略を高めるための研修動画の視聴と 相互コメントを行う研修プログラムの検討

Consideration of a training program for viewing training videos and mutual comments to enhance teachers' self-regulated learning strategies.

堀田雄大* 中野裕司* 合田美子*
Yudai Hotta* Hiroshi Nakano* Yoshiko Goda*

*熊本大学大学院

*Graduate school of Kumamoto University

＜あらまし＞ 教員の自己調整学習方略を高めるための、研修動画の視聴と相互コメントによる研修プログラムを設計した。KOLB の経験学習モデルを基に、動画視聴後、学習者同士で相互コメントを行うことや、ナッジ理論による相互コメントへの促進を行う内容とした。調査内容として、自己調整学習方略の向上を分析するためのプレ・ポストアンケート、KIRKPATRICK の評価モデルを参考とした研修プログラムの評価アンケートを作成した。研修プログラムの設計後、エキスパートレビューを基に、研究対象とする教員の要件を明確にすること、オンラインを活用した研修の利点について具体化することなどの改善点を得た。

＜キーワード＞ 動画視聴、相互コメント、経験学習モデル

1. はじめに

文部科学省(2022)は、教員研修の変化として、「オンラインによる受講環境の充実」をあげており、研修コンテンツを一元的に収集・整理・提供するプラットフォームの構築が期待されている。今後は、「新たな教師の学び」として「自らの学びのニーズに動機づけられ」ることや「主体的に学びをマネジメントしていくことが重要」であることが指摘されており、このような環境を生かし、研修として自身の教育課題に関する動画を選択し、時間を確保して自主的に視聴したり、関連することを調べたりすることが考えられる。

オンライン環境で、学習者が自主的に時間と場所を選択して学習する方法の一つに e ラーニングがある。これまでも、ビデオ・モジュールを活用した、教員の ICT 活用指導力を向上させる研修システムの開発(清水ほか 2010)など、オンラインによる受講環境を生かした研修が行われている。しかし e ラーニングによる学習は、自律的に学習を進める困難さも指摘されている(松田・原田 2007)。これに対し渡邊・向後(2017)は、相互評価の有用感が学習継続意欲に対して正の影響があることを示している。

教員が自主的に研修を進めていくためには、e ラーニングの利点や困難さを改善する取り組みに関する知見を参考とした研修プログラ

ムを開発していく必要がある。そこで本研究では、教員が自主的に学習を進めるための研修の要件に示唆を得るため、自己調整学習方略を高めることに着目し、動画視聴と相互コメントによる研修プログラムを設計した。

2. 研修プログラムの概要

2.1. 自己調整学習方略によるプレ・ポストアンケート

石川・向後(2016)が学生を対象として作成した尺度を参考とした。本研究の対象が教員であることを踏まえ、「学習方法を振り返る」「学習を工夫する」「同僚・友人にたずねる」「学習計画を立てる」「自分にご褒美を与える」の 5 つのカテゴリからなる 23 項目とした。アンケートは、研修プログラムの前後において、Google フォームで行うこととした。

2.2. 動画の内容と視聴期間

教員が自主的に学習を進めていくことを考慮し、研修対象となる動画は、教員自身が選択するようにした。参考となる動画として、教職員支援機構のウェブサイトを紹介した。調査期間は 1 か月と予定している。

2.3. 経験学習モデルを基にした動画視聴後の振り返り投稿

図 1 に、研修プログラムの概要を示す。上田・半田(2022)では、プロジェクト学習を KOLB(2014)の経験学習モデルに即して捉え、

振り返り課題について、「抽象的概念化」の観点から分析を行なっている。これを参考に、振り返りの記述内容については「視聴動画の内容紹介（内省的観察）」と「視聴動画の推薦（抽象的概念化）」について回答を求めることとした。

2.4. ナッジ理論による相互コメントの促進

相互コメント活動への参加意欲を高める方法として、ナッジ理論による働き掛けを提案している前田ほか(2023)を参考に、Confrontと Social Influence の考え方にに基づき、研修期間の1か月、毎週末、現在のコメント数と平均コメント数を示したグラフを提示する。

2.5. 事前・事後の意識調査アンケート

本研修プログラムの有効性を検証するため、小清水ほか(2014)を参考とし、研修に対する満足度、相互コメントやナッジによるコメント促進の効果についてアンケートを行う。

3. 分析方法

分析は次の手順で行う。①調査後、プレアンケートとポストアンケートの結果を比較し、上がった項目の優位差についてt検定を行う②調査期間中のすべてのコメントを記録する③コメントの記述量の変化をグラフ化する④コメントの記録について、共通する内容で分類しカテゴリ化し一覧にまとめる。分類は第一筆者が行い、第二筆者と確認し、一致しない部分は協議の上決定する。

4. エキスパートレビューから得た改善点

エキスパートレビューの結果、研修対象とする教員の学習に対する意欲の高低、動画視聴への経験といった視点から要件を明確にしていくこと、オンラインを活用する利点として、学習の振り返りや相互コメントがクラウドで自動保存されるといった内容を具体化していくといった改善点を得た。

参考文献

- 小清水貴子,藤木卓,室田真男(2016)ICT活用推進リーダーを対象にした集合研修の改善と評価. 日本教育工学会論文誌, 40巻2号 113-12
- 前田陽,竹川佳成,平田圭二(2023)プログラミング演習における相互コメント活動への参加意欲を高めるナッジ提示方法の提案. 実践的IT教育シンポジウム rePiT 論文集
- 松田岳士, 原田満里子 (2007) eラーニングのためのメンタリングー学習者支援の実践一. 東京電機大学出版局, 東京
- 文部科学省(2022)「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）（参照日 2023.6.11）
- 清水康敬,堀田龍也,中川一史,森本容介,山本朋弘(2010)教員のICT活用指導力を向上させる研修システムの開発.日本教育工学会論文誌,34(2):115-123
- 上田勇仁,半田純子(2022)プロジェクト学習における内省支援の実践と評価. 日本教育工学会論文, 46巻3号 543-556
- 渡邊文枝,向後千春 (2017) JMOOCの講座におけるeラーニングと相互評価に関連する学習者特性が学習継続意欲と講座評価に及ぼす影響. 日本教育工学会論文誌,41巻1号 p.41-51
- 石川奈保子・向後千春 (2016) 成人の自己調整学習方略尺度の開発および方略間の影響関係の分析. 日本教育工学会研究報告集, JSET16-1,p.417-424
- KOLB, A. DAVID. (2014) *Experimental Learning Experience as the Source of Learning and Development- Second Edition* : 32

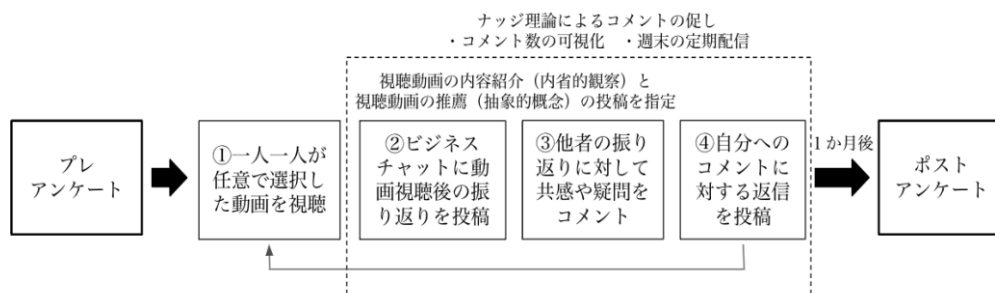


図1 研修プログラムの概要